

製品名: p130 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab15570

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	RBL2
別名	RBL2; RB2; Retinoblastoma-like protein 2; 130 kDa retinoblastoma-associated protein; p130; Retinoblastoma-related protein 2; RBR-2; pRb2
遺伝子 ID	5934.0
SwissProt ID	Q08999
免疫原	抗血清はヒト RBL2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 918-967

背景

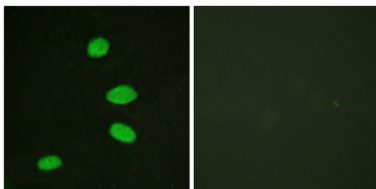
機能: 細胞分裂開始の重要な調節因子。クロマチン全体の構造、特にヒストンのメチル化を安定化させることで恒常的ヘテロクロマ

チンの構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与する。ヒストンメチルトランスフェラーゼ SUV420H1 および SUV420H2 をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こす。ヒストン H4 の Lys-20 トリメチル化を制御する。プロモーターにクロマチン修飾酵素をリクルートすることにより、転写抑制因子として機能すると考えられる。E2F を介したトランス活性化の強力な阻害剤であり、E2F5 と優先的に会合する。サイクリン A および E に結合し、アデノウイルス E1A タンパク質に結合し、その形質転換能に関与する可能性がある。腫瘍抑制因子として作用する可能性があります。、その他:G0 期に限定して発現します。、PTM:細胞周期の G0 期および G1 期初めに、Ser-639 およびドメイン B 内の 5 部位がリン酸化されます。G1 期における Ser-672 のリン酸化は、ユビキチン依存性タンパク質分解を引き起こします。、類似性:網膜芽細胞腫タンパク質 (RB) ファミリーに属します。、サブユニット:AATF と相互作用します。SUV420H1 および SUV420H2 と相互作用します (類似性による)。DREAM 複合体 (LINC 複合体とも呼ばれる) の構成要素であり、少なくとも E2F4、E2F5、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54、MYBL1、MYBL2、RBL1、RBL2、RBBP4、TFDP1、および TFDP2 から構成されます。この複合体は静止細胞に存在し、細胞周期依存性遺伝子の発現を抑制する。S 期に LIN9、LIN37、LIN52、および LIN54 が MYBL2 に結合するサブ複合体を形成すると、複合体は解離する。RINT1 と相互作用する。機能: 細胞分裂開始の重要な制御因子。ヒストンのメチル化を安定化させることで、全体的なクロマチン構造、特に恒常的ヘテロクロマチン構造を維持することにより、ヘテロクロマチン形成に直接関与する。ヒストンメチルトランスフェラーゼ SUV420H1 および SUV420H2 をリクルートして標的とし、エピジェネティックな転写抑制を引き起こす。ヒストン H4 の「Lys-20」トリメチル化を制御する。おそらく、プロモーターにクロマチン修飾酵素をリクルートすることで転写抑制因子として機能する。E2F を介したトランス活性化の強力な阻害剤であり、E2F5 と優先的に会合する。サイクリン A および E に結合します。アデノウイルス E1A タンパク質に結合し、その形質転換能に関与している可能性があります。腫瘍抑制因子として作用する可能性があります。、その他: G0 期限定発現。、PTM: 細胞周期の G0 期および G1 期初めに、Ser-639 およびドメイン B 内の 5 つの部位がリン酸化されます。G1 期における Ser-672 のリン酸化は、ユビキチン依存性タンパク質分解を引き起こします。、類似性: 網膜芽細胞腫タンパク質 (RB) ファミリーに属します。、サブユニット: AATF と相互作用します。SUV420H1 および SUV420H2 と相互作用します (類似性による)。DREAM 複合体 (LINC 複合体とも呼ばれる) の構成要素であり、少なくとも E2F4、E2F5、LIN9、LIN37、LIN52、LIN54、MYBL1、MYBL2、RBL1、RBL2、RBBP4、TFDP1、TFDP2 から構成される。この複合体は静止細胞に存在し、細胞周期依存性遺伝子の発現を抑制する。S 期には LIN9、LIN37、LIN52、LIN54 が MYBL2 に結合するサブ複合体を形成すると解離する。RINT1 と相互作用する。

研究分野

アクチンダイナミクスの制御; 細胞周期 G1S; 細胞周期 G2M_DNA; PI3K/Akt; タンパク質アセチル化

画像データ



RBL2 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。